



ウイグル その過去と現在

Tur muhammet トウール ムハメット

第3回 7.5ウルムチ事件以降の東トルキスタン支配政策

2011年11月14日配信 <http://www.youtube.com/watch?v=4w2c2K6D4A>

皆さんこんにちは。あるいはこんばんわ。中央アジア研究所のトウール・ムハメットです。今日皆様へ申し上げたいのは、2009年7月5日ウルムチで中国共産党およびその政府が、ウイグル人の平和的に行ったデモを一夜で大量な軍隊を出して弾圧したこと。

それから中国共産党が新疆ウイグル自治区の党の書記をその1年後更迭して、新しい自治区委員会の書記に「張春賢」という中国人を新たに任命して、大規模な経済援助という名目で、中国本土の19の省にまるで肉を分け合ったような形で東トルキスタンの各地域を中国本土の各省に丸ごと請け負わせた新しいひとつの支配システムを敷いた、ということを皆様へ紹介したいと思います。

2009年7月5日。この夜、中国共産党が計画的にウルムチに集まってデモ行進を行った大学生を中心とするウイグル人達を、一夜で殺したんです。私たちははっきりとしたというデータは入手していませんけれど、この2年間でいろんな情報をまとめるとやはりその晩で殺した数というのは、3000人前後だとだいたい分かっています。

中国の民主家が出しているポータルサイト博訊網がありますけれど、そこにある内部の人の告発として、7月5日の夜、新疆テレビの裏で一夜で燃やした犠牲者の遺体が1500体に及ぶという情報を出しております。これだけ見ても一夜の弾圧は凄まじく、いかに犠牲者が多いかということを物語っております。

もうひとつ、当時その晩にウイグル人が大量に殺されたところをたまたま通ったウイグル人の有名な歌手がいっしょにいます。その歌手がこの事件の2週間後、無残にも自宅の前で殺されています。ウイグル人の情報によりますとこの方は、ある友達の家で自分が目撃した無残なウイグル人が殺されたことを喋ったことで、この話しが国家安全の耳の届いたことで、暗殺されたんじゃないか？といわれています。ウルムチではみんながよく知っています。

この事件が世界中でも大きく報道されて、ウイグル人が国際的に同情を集めるひとつの機会になったわけですけれども、中国共産党にとって自分たちが21世紀で大量虐殺したということはいかに隠すかということでも、中国共産党は懸命だったんです。皆様よくご存知のように、中国共産党はなるべくその夜の情報を外に洩らさないために約10ヶ月間、東トルキスタンに国際電話をかけられない、それからインターネットも一切使えない。そういう非常事態を続けたわけなんです。

この大虐殺は国際的に大きく非難され、中国共産党も窮地に責められたわけですが、彼らはこの事件を新疆ウイグル自治区の党の書記「王楽泉」個人の責任であるような工作をして、王楽泉を左遷させるという形で国際社会の反発、それからウイグル人の反発を抑えようとしたわけなんです。

2010年5月に北京で新疆工作会議というのが開催され、その会議で中国共産党が東トルキスタンを支配する新しい策略、戦略を持ち出したわけなんです。そのひとつは東トルキスタンを中国本土の19の省と市に、まるでスイカを切って一枚一枚分け合うという形で請け負わせるという戦略なんです。

例えば有名なカシュガル市は中国本土の深セン、それから広東省に分け与えられています。このカシュガル市のほとんどの建設、それから行政、いろんな面について広東省、深セン市というところがお金を出し、人を出し、基本的にここを彼らの植民地のように扱うようになったわけなんです。それからホータンというところは別の市に与えられています。アクスもまた別の市と省に与えられています。ハミというところは江北に与えられています。こうしてウイグル人が集中して住んでいるところは分け与えられています。

このやり方は中国本土は必ず東トルキスタンとなんらかの結びつきを持って、東トルキスタンと中国本土がなんらかの利害関係を持つという形を作っております。

東トルキスタンの石油や石炭、それからその地下資源がそこを請け負った省だけが利益を得ることになっています。

例えばカシュガル地域になると、ここには他の省とか市は投資したりすることは禁止されています。広東省と深セン市だけがここに投資して地下資源を開発する権限を与えられています。だから彼らは懸命に自分たちに与えられた地域に対して投資をし、その地下資源を開発して、それを直接自分たちの地域に持って帰っています。

それまでは東トルキスタンは基本的に中国共産党の、彼らが言う新疆ウイグル自治区党委委員会の書記の個人的な支配下にあったわけなんです。その王楽泉は共産党の内部からも汚職ということでも非難されていた一人です。中国の民主家が発表している資料によると、王楽泉は当時の江沢民グループと結びつきが強く、それから当時の中国副国務委員長の曾慶紅という人と個人的な関係が親しく同じ派閥に属するといわれていました。

そうすると王楽泉は中国共産党書記の胡錦濤のグループとは別の派閥に属するということで、胡錦濤はずっといかにして王楽泉を更迭しようと考えていたけれど、他の派閥に入っているから新疆の内部に自分の側近を植え付けることは出来なかったわけなんです。

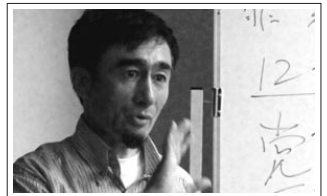
そこで2009年7月の大虐殺は結果として王楽泉が非常に不利な立場に追い落とされたわけなんです。それで胡錦濤や温家宝の派閥は、江沢民、曾慶紅という人たちの派閥を追い落とす、やっとならば胡錦濤、温家宝、あるいは習近平に近いと言われる張春賢という新疆ウイグル自治区委員会の書記を、東トルキスタンに総督として派遣することが出来たわけなんです。

しかし王楽泉は彼が自分の意志で2009年7月5日の弾圧を行ったわけ

トウール ムハメット Tur Muhammet

農学博士、元新疆農大講師。民間会社勤務。任意団体「中央アジア研究所」代表兼研究員。日本でウイグル問題について講演や執筆活動をしている。

<https://twitter.com/#!/etman09>



はないです。彼は中国共産党政府の政治局委員ですけれど彼の全ての行動は中国共産党中央の指示によって、彼らの計画によって行われたことなので、王楽泉個人の独断でその場の弾圧が行われたということはありません。

だから中国共産党もこの王楽泉を北京に呼び戻した後に、彼を即座に失脚させるのではなくて、中国共産党政法委員会というのがありまして、その組織は中国本土の全ての公安警察、秘密警察、国家安全という独裁武力機関を指揮統合するナンバー2にしたわけなんです。

中国共産党はウイグル人を血生臭く弾圧した、ウイグル人の血で手が真っ赤に染められ人殺した人物を大事にして、今度は中国本土の国家警察、秘密警察、国家安全の長にしたということです。

日本で当時、王楽泉は失脚したという報道がありましたけれど、まったく皆さんは中国共産党の本質が分かっていないから日本でそういう報道がされたんじゃないかと私は考えております。

中国共産党は東トルキスタンのウイグル人を敵に回して、ウイグル人の命は中国共産党にとって虫ケラにもあたらない。そんな軽いものであるということです。

東トルキスタンで行われている全ての虐殺、ウイグル人に対する弾圧、これは全て北京が政策立案して、北京が派遣した王楽泉、張春賢のような人たちがそれを実行して大量虐殺が起こった後、現地の住民の憤りを抑えるため、あるいは国際社会の圧力を抑え上げるためにトップ役員の更迭を行うけれども、実際は王楽泉というものは中国共産党にとって貢献者として、もっと彼を信用し、もっと彼に権限を与えた結果になっております。今でも王楽泉はまだ中国共産党の指導グループの一人として中国の国家警察、安全部隊の指揮権、全国範囲で彼の指示が実行されるようになっております。

一方で中国共産党が新疆ウイグル自治区に派遣した新しい書記、張春賢という人はどういう人かといえますと、彼は最初まるでウイグル人にもっと良いことをやってあげようというイメージで東トルキスタンにやってきたのですけれど、結局彼が就任して1年以上になりますが、東トルキスタンの状況は何もかわっていません。

王楽泉がやったことをそのままもって進んだ状況で、今の新しい書記張春賢の元で行われております。王楽泉のときは個人が東トルキスタンを支配したような感じだったけれど、張春賢になってからは19の省に分け与えられて、張春賢はその19の省がいかに東トルキスタンから略奪することができるか、いかにそれが順調にできるかということの調整者としての役割を果たしております。彼はまったく東トルキスタンの住人に対して良いことは何一つやっていないです。

弾圧は今でも続けております。東トルキスタンの南の方で、カシュガル、ホータン、アクスというウイグル人が集中して住んでいるところで開発という名の侵略はもっと進んだ状態で行われています。

例えばカシュガルの旧市街地は王楽泉のときにも破壊されたのですが、張春賢になってからもその破壊はまったく止まっていません。今度ももっと農村部のほうに開発が及んで、農村部に住むウイグル人の土地、畑や家が壊されてそこに新しい中国人のチャイナタウンが出来ております。

そこで家を失ったウイグル人たちは、陳情にウルムチ、そして北京にまで訴えに行っているけれど、中国共産党は家が奪われたウイグル人の陳情を切ってくるどころではなく、彼らを国家の安全を危機にさせているテロリストとして取り締まり、彼らの多くを刑務所にいれております。

こういうことを実行しているのが張春賢という人です。だから王楽泉だろうが張春賢だろうが、中国共産党の東トルキスタンに対する侵略政策は何も変わっていません。彼はもうすでにウイグル人を中国国家の敵に回して、更に東トルキスタンのウイグル人をもっと締め付けて、ウイグル人の家まで壊してそこにチャイナタウンをたくさん作ってもっと東トルキスタンを中国化したいと、その国家戦略を着々と進めております。

2010年5月北京で開かれた新疆工作会議というのは、中国共産党の今まで行ってきた略奪、侵略という国家戦略をもっと一歩進んだ形で行うために開いたひとつの総動員大会です。

皆さんその会議にウイグル人が参加されたと思うかもしれないけれど、中国共産党中央にウイグル人として中国の全人代の副委員長、あるいは政治協商会議の副首席として動いているウイグル人が二人います。それからウイグル自治区トップの首席ヌル・ベクリとか、それから何人かウイグル人がいますけれど、彼らは中国共産党の飼っている犬、傀儡に過ぎませんから、彼らは一言も中国共産党の略奪、侵略については反論もしない。ただただ手を上げて中国共産党が決めていることを賛成だということしか言えない人たちなんです。

だからこの会議にウイグル人の声は全く届けられていない。ウイグル人の意志もまったく反映されていない。そういう会議だったんです。

それによってウイグル人はもっとも失望に追いやられています。今の東トルキスタンでは経済開発は一方的に中国共産党により進められていますけれど、そこからウイグル人はなんの利益も得られてないです。それが今の東トルキスタンの現実で、ウイグル人たちの悲惨な現実です。今日は皆さんにご報告させていただきました。ありがとうございます。



Radio Free Uyghur Japan
ラジオフリーウイグルジャパン
<http://rfuj.net>



20111120 EPOCH DESIGN